

重大事故発生! 体調管理の徹底を

平成26年5月14日、埼玉県首都高速道路5号池袋線で、渋滞している車両の最後尾にトラックが突っ込み3人が死亡する追突事故が発生しました。トラックの運転者は、体調がすぐれず事故の2日前から風邪薬を飲み、また、事故当日も痛み止めを飲んだという報道もあり、安易な薬の服用や体調管理の不徹底が事故に繋がった可能性があります。事業用貨物自動車第1当事者となる重大事故は、これまで培ってきた業界への社会的信頼が一気に損なわれることとなります。再発防止に向け、体調管理の徹底を肝に銘じてください。

●安易な薬の服用は控える

Aさん「先日発生した、埼玉県首都高速道路での事故は、健康起因による可能性が高くなったね」
 Bさん「あの事故だね。ニュースで見るときはソツとしたよ。続報などを見てみると、事故の何日も前から体調が良くなかったんだってね。事故の前や当日も薬を飲んで運転していたとか」
 Aさん「そういう報道もあるね。いつも言っていることだけど、風邪薬や痛み止めといった薬には眠気を催すものが少なくないから、安易な薬の服用は控えないと」
 Bさん「本当にそうだよ。ただ、安易に考えているドライバーも多いんじゃないかな。実は昔一度、体調の良くない時に風邪薬を飲んで運転したことがあるんだけど、急に眠気が来て、このままじゃ事故になると思って車を停めたことがあるんだ。あのまま運転していたら、僕も事故を起こしていたかもしれない」
 Aさん「運転を仕事にしている僕たちは、薬に関して気をつけるべきだね。ちなみに僕は、ドラッグストアで薬を買う時は、注意事項を必ず確認して、眠気を催すものは避けている。よくわからない時は、薬剤師等に聞くようにしているよ。後輩にもそうするように言っている。あと、医者にかかった時は、仕事はトラックドライバーで、運転に支障のない薬を処方してもらおうようにお願いしている」
 Bさん「医者からは『休みなさい』と言われることはないの」
 Aさん「もちろんあるよ。人手不足の今、なかなかそうは言ってもらえないこともあるけど、体調優先は基本だ」

●体調管理を徹底する

Bさん「だから日頃からの体調管理が大事になる」
 Aさん「本当にそう思うよ。安全運転には健康が欠かせないからね。悪くなって対処するのではなく、悪くならないように普段から気をつけておく。これが大事だよ。Bさんは気をつけていることはあるかな?」
 Bさん「一番は規則正しい生活だね。一日のリズムをなるべく崩さないようにしているよ。食事は栄養のバランスを考えながら、正しくとるようにしている。Aさんはどう?」
 Aさん「僕もだいたいBさんと同じかな。付け加えると、ストレスをためないように、休日は体を休めるとともに、趣味を楽しんだりしている。あと、これからの季節は、暑さで寝不足になったり、熱中症のこともある。こうした季節ごとの対策もきちんと行ってほしいな」



●健康診断で病気の早期発見を

Bさん「健康診断もおざなりにしてはいけないね」
 Aさん「そうだね。それと僕たちドライバーは年に1回、深夜の運行業務を行っている場合は年に2回の健診が義務づけられている。必ず健診を受けることで、自分の健康状態を正しく知ることができる。もし病気が見つかったら、速やかに治療を開始することで、症状の悪化を防ぐことに繋がる」
 Bさん「健診の受診はもちろん、『要再検査』と判定されたら必ず医療機関で検査を受けることも忘れずにね」
 Aさん「僕たちプロドライバーが事故を起こすと、自分や会社はもちろん、業界全体の信用に関わる。だから安全運転を徹底しなきゃいけない。そして、その安全運転に欠かせないのが『健康』だと思うんだ。事故防止のための体調管理を徹底してもらいたいな」

号外

Japan Trucking Association since 1953



広報 とらつく

毎月1日・15日発行 5月20日号 発行所 公益社団法人 全日本トラック協会

絶対に「交通事故」を起こさない!!

坂本会長 業界を挙げて安全対策徹底を!



首都圏で死亡事故、事業用トラックが第1当事者となる死亡事故の推移(令和2~6年)

- 記
- 改正された改善基準告示に則る乗務割の作成及び運転時間や拘束時間、休息期間確保などドライバーに対する関係法令を遵守することの徹底
 - 最高速度・規制速度の遵守及び適正な車間距離の確保など、道路交通法等関係法令遵守の関係者に対する指導の徹底
 - 乗務前後の対面点呼時はもとより、対面でなく電話その他の方法で行う点呼の場合においても、アルコール検知器を用いた酒気帯びの有無の確認が確実にできる点呼実施体制の確立

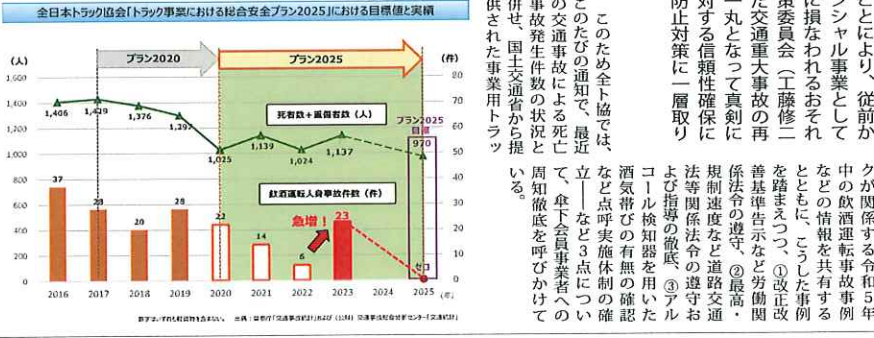
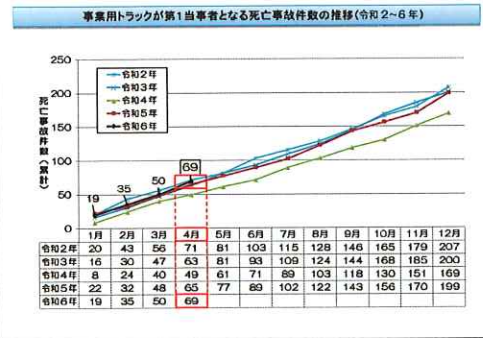


公益社団法人 全日本トラック協会 交通対策委員長 工藤 修二

5月に入り、事業用トラックが第1当事者となる死亡事故が相次ぐことにより、従前から培われてきたエッセンシャル事業としての社会的信頼性が一気に損なわれるおそれがあり、全ト協交通対策委員会(工藤修二委員長)では、こうした交通重大事故の再発防止に向け、関係者一丸となって真剣に取組むことが社会に対する信頼性確保に繋がることから、事故防止対策に一層取り組むよう求めている。

5月に入り、事業用トラックが第1当事者となる死亡事故が相次ぐことにより、従前から培われてきたエッセンシャル事業としての社会的信頼性が一気に損なわれるおそれがあり、全ト協交通対策委員会(工藤修二委員長)では、こうした交通重大事故の再発防止に向け、関係者一丸となって真剣に取組むことが社会に対する信頼性確保に繋がることから、事故防止対策に一層取り組むよう求めている。

5月に入り、事業用トラックが第1当事者となる死亡事故が相次ぐことにより、従前から培われてきたエッセンシャル事業としての社会的信頼性が一気に損なわれるおそれがあり、全ト協交通対策委員会(工藤修二委員長)では、こうした交通重大事故の再発防止に向け、関係者一丸となって真剣に取組むことが社会に対する信頼性確保に繋がることから、事故防止対策に一層取り組むよう求めている。



資料: 国土交通省「令和5年10月1日現在までの交通事故発生状況」(令和5年10月27日発表) 国土交通省「令和5年10月1日現在までの交通事故発生状況」(令和5年10月27日発表)